

行事報告

ザ・シンポジウムみなと in 釧路

令和3年11月25日(木)、29回目となる「ザ・シンポジウムみなと」を、『釧路港と東北北海道の将来像～国際バルク戦略港湾とこれからの戦略的な産業振興～』をテーマとして、釧路市観光国際交流センターで開催しました。

昨年度は無観客での開催となりましたが、今年度は万全のコロナウイルス対策のもと、釧路の会場には約210名の方々が参加していただき、WEBライブ配信でも約190名の皆様にご視聴をしていただきました。なお、シンポジウムの様子はCPCホームページで録画配信も行っています。(12月13日より)。

はじめに、主催者を代表してザ・シンポジウムみなと実行委員会の眞田仁委員長、開催地を代表して蝦名大也釧路市長から開会の挨拶がありました。

次に、伴篤釧路市副市長より『国際バルク戦略港湾 釧路港の取り組み』と題した基調講演がありました。講演では、釧路港が国際バルク戦略港湾となった背景や経緯、国際物流ターミナル整備の効果と課題、そして釧路港のこれからの可能性などについてお話がありました。

休憩をはさみ、「釧路港と酪農・畜産、食と観光」をテーマに、パネルディスカッションが行われました。パネリストには、蝦名大也釧路市長、鶴雅ホールディングスの大西希副社長、酪農家でYouTuberの浅野

達彦 JA 阿寒青年部長、釧路みなとオアシス協議会おもてなし部会の金子ゆかり部会長、釧路公立大学の中村研二地域経済研究センター長が参加され、フリーアナウンサーの渡辺陽子氏をコーディネーターとして、熱心な討論が交わされました。

様々な分野の専門家であるパネリストの皆様から、酪農・畜産、食や観光分野の現状や港との関わりについてご紹介をいただいた後、地域や産業の振興のために釧路港がそのポテンシャルをどう活かして行くべきかなど、幅広い話題提供と意見交換がなされました。そして最後は、釧路港に対する期待の声を皆様からいただきパネルディスカッションを終えました。

なお、会場内アトリウムではNPO 法人北海道みなとの文化振興機構と北海道開発局釧路開発建設部による「みなとパネル展」も開催され、多くの方々にご覧になっていただきました。

シンポジウムの挨拶、基調講演、パネルディスカッションについては、来年度発行する「海と港 No.40」に掲載する予定です。



会場の様子



みなとパネル展

●主催者代表 挨拶



実行委員長 眞田仁氏

●開催地代表 挨拶

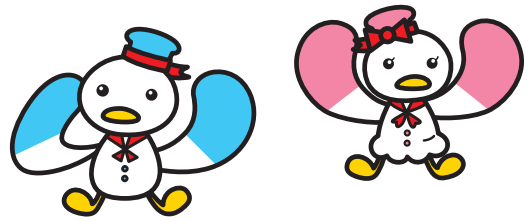


釧路市長 蝦名大也氏

●基調講演



釧路市副市長 伴篤氏



●パネルディスカッション



パネリスト 蝦名大也氏
釧路市長



パネリスト 大西希氏
鶴雅ホールディングス(株)取締役副社長



パネリスト 浅野達彦氏
酪農家・YouTuber JA 阿寒青年部 部長



パネリスト 金子ゆかり氏
釧路みなとオアシス協議会おもてなし部会長



パネリスト 中村研二氏
釧路公立大学 地域経済研究センター長



コーディネーター 渡辺陽子氏
フリーアナウンサー